

悪石島への離島巡回歯科診療同行実習を終えて

5年 浪花 沙輝

2013年12月13日から15日までの2泊3日間、私は悪石島で行われた離島巡回歯科診療に同行させていただきました。

鹿児島市の港を出発して約11時間後、12月14日早朝に悪石島に到着しました。悪石島は、島全体が緑に囲まれ、野生の山羊が道を歩いているところに遭遇するなど、とても静かで自然豊かな島であると感じました。

上陸後、島のコミュニティセンターで準備をした後、午前11時からコミュニティセンター内とこじか号の二つに分かれて歯科診療が始まりました。

フェリーと一緒に乗ってきた『こじか号』は一見普通のバスですが、中には歯科用チェアや器具の滅菌処理のできる機械があったり、必要な時にはレントゲン写真を撮ることができるなど、普段目にしていない診療室と同じような設備が整っていたことにとっても驚かされました。



フェリーとしま

一方、コミュニティセンター内での診療は、ペダルを踏むとやっとな動くバキューム（吸引装置）や携帯用の懐中電灯のようなライトが取り付けられた3人がかりでやっとな角度を変えることのできる診療台が設営され、また、うがいは患者さんに洗面所まで行ってもらう必要があるなど、見慣れない環境で行われている診療がとても印象的でした。

診察には、小児から高齢者の方まで幅広い年代の方が来られて、口腔内の状態の検査、う蝕処置、義歯調整、PMTC（歯面清掃）、フッ素塗布などが行われました。離島での診療は、島で活動できる期間の中でできる治療を行う必要があります。今回、悪石島には、1日のみの滞在だったため、患者さんの主訴にできる限り応え、なおかつ1日で可能な処置をその場で考えなければならず、限られた設備や環境や時間の中での先生と歯科衛生士の方の柔軟な対応にとっても驚くと同時に、離島診療の難しさを実感しました。



こじか号の中

先生方は、治療前にはこれからどんなことを行うのかを、また治療後は今後のケアの方法などについてのお話をとても丁寧にされていました。島民の方は、日頃、口腔内のことについて直接先生に相談したり、質問する機会がなかなかないため、先生は丁寧な説明で、患者不安や疑問をなくそうと努めておられるように思いました。診療は、夕方まで行われ、15の方が診療を受けられました。

今回の診療のなかで、歯が痛んで食欲が出ないという方や、義歯の不調を主訴に来られる方がいらっしゃいました。歯の痛みによって食欲が出ないと、気持ちまで落ち込んでしまったり、栄養の面でも問題が起こったり、また、義歯が合わないと痛みのほかにも咀嚼や発音や審美性にも問題が生じるなど、その方のQOL(生活の質)



の低下にもつながってしまいます。年に2回の歯科診療は、そういった痛みや不調があっても

コミュニティー内での診療中のようす

なかなか歯科治療を受けられない島民の方のQOLの向上、また、小児においては予防的処置や歯磨き指導を行うことで口腔内の健康状態の維持に努め、将来のう蝕や歯周疾患を予防するという点で、大切な役割を担っていると感じました。

今回このような貴重な体験の機会を与えてくださった方々、先生方、歯科医師会の方々、そして悪石島の皆さま、本当にありがとうございました。今後、この貴重な経験を生かして精進してまいりたいと思っております。